

## ◇現状・課題

学 力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定着度に個人差が見られる。</li> <li>・学んだことを生活に活用する力が十分についていない。</li> <li>・授業を十分理解していると感じている生徒が7割である。</li> <li>・授業中進んで発表する生徒の割合が4割である。</li> <li>・自分の考えや意見を表現することが苦手で、言葉や文字を通してのコミュニケーション能力が十分に育っていない。</li> </ul>
学 習 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた学習態度で授業に参加することができる。</li> <li>・与えられた課題に対してまじめに取り組むことができるが、自分で考えて行動することが苦手で指示待ちの傾向がある。</li> <li>・自ら計画や目標を立て家庭学習を進めている生徒は6割前後にとどまり、宿題が十分にできていない生徒も3割見られた。</li> <li>・自分の将来について具体的に考える機会が少なく、学習の目的がはっきりつかみきれていない生徒が多い。</li> </ul>

## ◆ 目標等

## (1) 学力について

重点目標：すべての教育活動を通じて言語活動の充実を図る。 授業や朝学習の時間を充実させ、基礎基本の徹底を図る。		
具体的目標	数値目標	具体的方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の考える力、コミュニケーション能力を高める授業研究を行う。</li> <li>・定期テスト・校内実力テストを効果的に活用し、学力の定着を図る。</li> <li>・授業等を通して基礎基本の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に言語活動を取り入れ、表現する機会が増えたことを実感した生徒が、昨年度と比べて1割以上増加するようにする。</li> <li>・すべての生徒がテストごとに理解できた問題が増えたことを実感できるようにする。</li> <li>・8割の生徒が授業を十分理解していると感じるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードミーティングを取り入れて、生徒自身が自ら考え、表現する機会を多く作っていく。</li> <li>・各教科で自己評価・相互評価を取り入れながら、個々の課題解決の意欲を高める。</li> <li>・テストを実施した後、誤答が多かった問題について説明をし、再テストを行うなどして定着を図る。</li> <li>・テストの実施時期を見直す。</li> <li>・チャイム始業・チャイム終了の徹底を図り、生徒の学習時間を確保する。</li> <li>・朝学習の時間（15分）を効果的に使い基礎学力の定着を図る。また、読み聞かせや読書を取り入れ、読解力を高める。</li> <li>・長期休業中に、質問教室を開くなど基礎基本を定着させる方策をとる。</li> </ul>

## (2) 学習状況について

重点目標：自ら計画や目標を立てることのできる家庭学習習慣の定着を図る。		
具体的目標	数値目標	具体的方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習のてびき」の活用を促進する。</li> <li>・家庭学習の予定を立て時間を有効に使えるようにする。</li> <li>・課題を確実に仕上げる習慣を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を立て苦手教科・分野の克服ができた実感する生徒が昨年度より1割以上増加するようにする。</li> <li>・家庭での目標学習時間を自ら立て、目標どおりに実施できた生徒を増やす。</li> <li>・9割以上の生徒が宿題にじっくり取り組めたと実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習のてびき」の内容を予習・復習の習慣がつくように見直しをしていく。わからない問題を自分で調べて解決に導いていく3色勉を進めていく。</li> <li>・毎日帰りの学活で放課後・帰宅後の学習時間と学習内容の予定、就寝時間の予定をたて、時間を有効に使えるようにする。また自分ができたところをチェックしていき、可視化することで、自らの時間の過ごし方を確認していく。</li> <li>・適切な量の課題を出すように配慮する。</li> <li>・忘れがちな生徒については、個別指導の時間を設ける。</li> </ul>